



2004年1月22日

報道関係各位

IAI日本支部事務局

## 有限責任中間法人IAI日本の設立

IAI日本支部(中央区晴海 会長 庄子幹雄)は、本日、非営利団体IAI(International Alliance for Interoperability)日本支部を、今年2月下旬にも法人化し「有限責任中間法人IAI日本」とすると発表しました。

有限責任中間法人IAI日本の設立にあたっては、1月20日に開催されたIAI日本支部の臨時総会にて、全会員の決議をもって可決されました。

今回計画している法人化とは、2002年4月に施行された中間法人法に規定されている新しい法人形態であり、「有限責任中間法人」と呼ばれるものです。「有限責任中間法人」は、社員に共通する利益を図ることを目的とし、且つ、剰余金を社員に分配することを目的としない社団です。

現行のIAI日本支部会員に関しては、有限責任中間法人IAI日本に引き継がれます。

IAI日本支部は1996年に発足後8年が経過し、会員皆様のご協力を賜り、IFC R1.0から始まったバージョンも、昨年にはIFC 2.x2をリリースしました。また、一昨年10月にはISOの認定も受け、実質的な国際標準として認知されました。この間、日本支部は、IFCの仕様の一部として、鉄筋コンクリート構造(ST-2)の仕様開発を担い、本年度に完成することができました。現在では、世界各地の支部で実用化に向けた取り組みが、活発に行われ始めております。

このようなIAI日本支部の活動の結果、IFCが次世代CALS標準の最有力候補に浮上してまいりました。これに伴い、公共団体や他の標準化団体からの標準化作業業務を受託する為にも法人化の必要性が出て参りました。今回のIAIの法人化により、IFCは建設産業の業界標準として一層普及が加速するものと確信しております。

以上

有限責任中間法人IAI日本としての今後の方針ならびに新組織は下記を予定しております。

尚、有限責任中間法人IAI日本の理事、監事につきましては、2月上旬に行われる社員総会で選任されます。

【有限責任中間法人IAI日本の活動方針】

-IAIメンバーに対するIFC技術啓蒙・教育

高度化するIFC技術スキルアップのための方策を实践



-IFCデータ・サーバの実証実験継続

Web上で利用できるIFCデータ連携環境の構築のための実証実験を継続対応

-IFCの日本仕様検討

構造関連(ST-2)および建具・仕上げ、設備関連での日本仕様の追加検討を分科会にて対応

-官公庁・外郭団体との次世代CALSへ向けた取り組み

-JACICとのSXFレベル4でのリエゾン

電子納品でのCADデータの標準化SXFの3次元化(レベル4)との技術的連携

-IFCに関するプロモーション・普及活動

プロモーションに関する実践(展示会参加、セミナー開催、ニュースレター発行、パンフレット発行、雑誌・新聞記事掲載など)、参加企業の増大活動

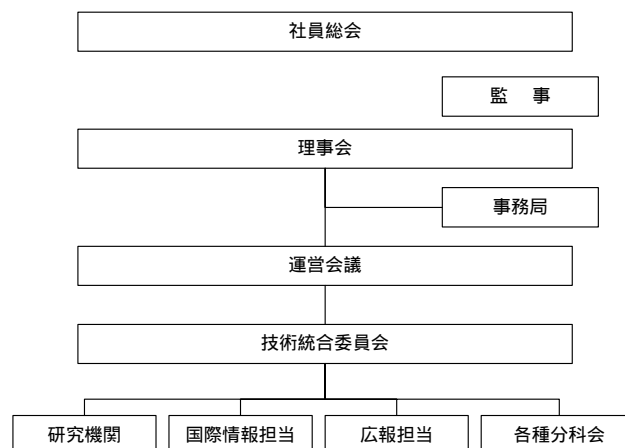
-IFC関連での公募挑戦や新規ビジネスの模索

IFCの今後のビジネス・チャンスとしてさまざまところで拡大化を狙う

-IAI/IFCの活動活性化

国際会議(IC・ITM)継続参加、他団体(C-CADEC,JACICなど)との連携(アライアンス)など

【有限責任中間法人IAI日本組織形態】



本リリースに関するお問い合わせは下記にお願い申し上げます。

IAI日本支部事務局

TEL: 03-3222-8930 FAX: 03-3222-8892

Email: [iaijapan@interoperability.gr.jp](mailto:iaijapan@interoperability.gr.jp)

URL: <http://www.interoperability.gr.jp>